

KSKQ

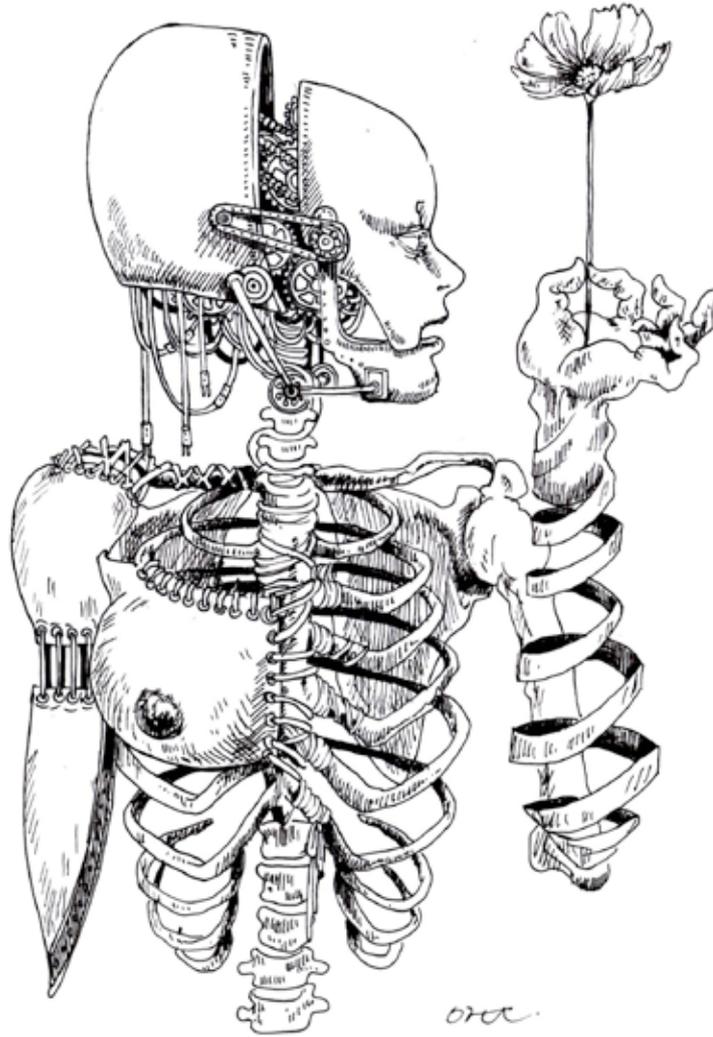
イマージュ

2021年10月

1991年9月3日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

コロナ禍による二度の延期を経て

『心と地 - さ迷える愛・急』



地球に残された人類の末裔と、  
宇宙空間で命をつないでいる「属人類」が展開する  
SFストーリー。ついにチケット発売！

劇団態変第72回公演・アイホール提携公演

『心と地 - さ迷える愛・急』 作・演出・芸術監督 金満里

2021年11月12日(金)～14日(日) 会場: AI・HALL

10月16日 チケット発売開始

# ひとりから

何もかもが、新しく生まれるような  
産まれ変わるような

そんな経験は、  
三途の川を渡りそこねて、彼岸を向こうに  
戻って来るような

宇宙からの帰還を、  
命からがら、果たし、地球を  
見るような

無重力状態の、宇宙船での歳月に  
すっかり、筋力も萎えて、大気圏突入後に  
地球上に降り立って、初めて、  
足を着けて、へたり込むような

だけど、必死にカッコつけて、立ってるふりし  
ニッコリ、カメラに収まるような

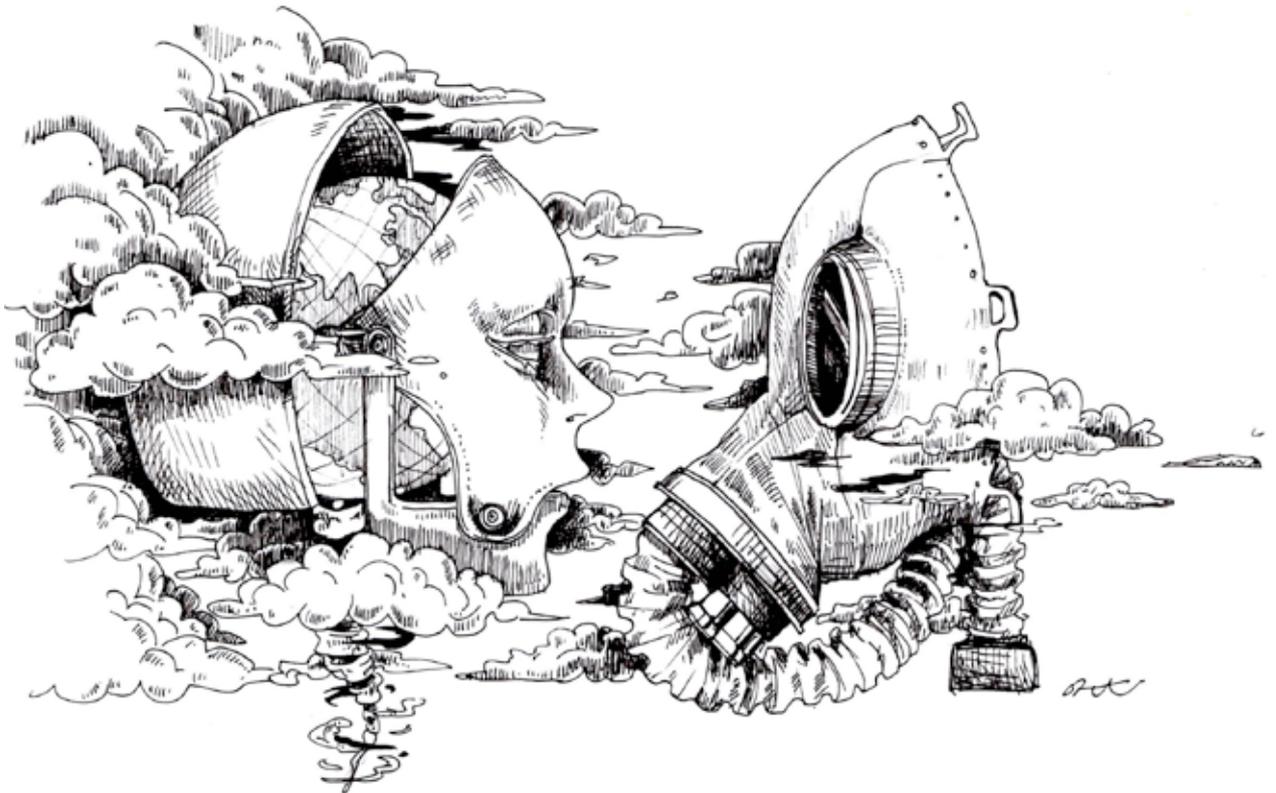
そんなアホ、は、もうお仕舞いさ

おさらばさ

天地をひっくり返す、三途の川の向こうに  
天国も地獄もない、ましてや、宇宙もない

そんな、心、と、地、の  
あんなだけの、ものがたり、を刻む、ゆ、う、き  
が、いるだけさ

金満里



## 『心と地』 さ迷える愛・急』

本作は、人類の末裔の行く末を、  
宇宙的視野で思索するSFである！

本作品『心と地』さ迷える愛・急』で、態変は宇宙へその舞台を移します。

高度に発達した資本主義は留まるところを知らず、人間までもその支配下におくようにせせら笑い、誰にも止められない得体のしれない驚異となっている近未来を予見します。

人類の行く末は？

強化される管理社会で人の心はどう人間らしさを保つのか？

そして地球を汚すだけ汚し、奴隷労働のゴミ溜めに地球を陥れ、自分たちだけ宇宙へと新境地を拓いていくのは人間なのか、あるいは得体のしれない資本主義の実態なのか。顔のない存在が絶妙に絡み合い、態変独自の宇宙が立ち現れる。

出口の見えないコロナの時代、どこか現実とつながっているSFの世界へと足を踏み入れその問いを探り、身体で掘り下げる試みです。シリアスでどこか愛おしく、そして土着的ながら浮遊する”態変身体”でこそ描ける、これまでにないSF作品としてお届けします。

当初公演を予定していた2001年5月から1年半、三度の延期を重ね難産となった『心と地』。現在も、幕が開く直前まで何が起こるか誰にも予測のつかないことではありますが、今度こそ！ いよいよ皆様のお目にかかれる予兆が感じられること、心より嬉しく思っています。

そして、この『心と地』で完結となる「さ迷える愛」シリーズ三部作は、12月に横浜で一挙上演の運びとなりました。（詳細はP5）舞台芸術の力が弱りつつある現在の状況に甘んじず立ち向かう姿勢としての態変招聘、その心意気にわたしたちは大いに勇気もらい、身の引き締まる思いで作品製作に取り組んでいます。

11月関西公演。そして、続く12月の横浜での三部作公演へと、あわせてご期待を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



『心と地』プロモーションビデオ 公開中



<https://youtu.be/axgVaZlcVQI>

# 『心と地』 ミュージシャンインタビュー

態変流SFの音楽を担当頂くのは、コントラバス奏者・中島直樹さんと、音作家・かつふじたまこさん。稽古の合間にお話しをうかがいました。

## コントラバス 中島直樹

―演奏している時は、どんな感覚でやっているんですか。

感情、とかはあまり無いか。演奏している時は、身体のごすれる音とか、全部聞いているようで、聞いていたら遅い。聞きながら音を出している、同時、みたいな感じ。全部、フラットにするような感じ…

―中島さんは、13年のOVER THE RAINBOWのトリオでの演奏から一緒に作っていただいて、今回で5作目ですね。

身体表現の人とやり合うのが好きなんです。態変は、ストーリーがあるから、関わり方は難しい。純粹な即興ではなくて、いろんな制約を作られたうえで即興。ものすごい制約のある中で、どれだけそこで自分のことができるか。

だから即興の要素は残しつつ、実は前もって作ってきている部分が多い。この場面ではこれを出そうと。譜面には落とされへんけど、これは弓で弾くかとか、手で弾くかとか、そんなのは大体決めてる。その、制約があるおもしろさ。金さんの欲しいタイミング、欲しい音がある。稽古でその音、を気に入ってもらったり、そこで違う音出したらあかん。

コラボレーションをやっていると、どんどん孤独になっていく感じ。作品と一緒にって一体感というよりも、そういうのは好きではなくて、音は音で孤独にある。そうなった時が、いい、と思いますね。

## 音 かつふじたまこ

―今回の音、の秘密を教えてください！

音作りの参考にしたのは「2001年宇宙の旅」。あれは金さんにも見るようにと言われたので見ました。

今回は三部作の完結編。序の、『翠晶の城』でも同じメンツで音を担当しているんだけど、今回の作品でも『翠晶の城』をちよつと彷彿させるような要素を入れたいなと思っています。これはネタバレですけど（笑）

態変の音を作るのは、4作品目です。15年の『試験管』がはじめ。だんだん、金さんはこういう時にはこういう音がほしいんだろな、とか私がかような音を出してくれるやろなというのが、お互いに、分かる部分が増えてきたのでは…

―態変の音を作る時のおもしろさ、難しさは？

おもしろさは、抽象的な感じがあるところかな。体、が抽象的かどうかはわからないけど、体の形、からイメージが膨らませやすいんですよ。想像力もかきたてられる。

「〇〇のダンス」というシーンの稽古を撮影したビデオを見て、きゅんとするものがあり、そのイメージで音にしてみたのね。でもそれは全然没だった。自分がソロでやってたら自分が好きな音しか出さないけど、誰かとやることで引き出しが増える。全然私とは違う性質の金さんとやるっていうのが、難しいしおもしろいと思うところやね。

## 鉄秀氏による

# 態変と金満里のインタビュー動画公開

これまで個展以外では未発表の絵画作品と、いただいたメッセージをご紹介します。

アーティストの鉄秀です。

昨年10月に、金満里さんにお話をお伺いし、その模様を撮影させていただきました。

その際に聞かせていただいた内容は、感銘深く、僕が現在新たに挑戦している漫画制作に大いなるヒントとなりました。

僕のまわりには、劇団態変や金満里さんのことを知らない方もたくさんおられます、様々な人に知っていただきたいと思い動画を作成いたしました。

13日はアフタートークにてゲスト出演いたします。皆様にお会いできることを楽しみにしております。



動画はこちらからどうぞ  
<https://www.tesshu.art/>

## 稽古レポート

### 『心と地』から考えたこと

白井莉奈子（黒子）

例えば私が金さんと話す時は金さんと私のコミュニケーション方法があつて、私と菜月さんが話す時には菜月さんと私のコミュニケーション方法がある。そんな風に、本当は一個体同士の、自分と相手の間に特殊性のあるコミュニケーションがあるはずなのに、日常生活で私は人と話す時（健常者と話すことがほとんど）、こういう会話の流れになったら、こう切り返せばうまくいく、みたいなある種の会話のパターンというか定石みたいなものがあるなと思います。

日常生活では、そんな風にある意味ではやや機械的に私は人とコミュニケーションを取るのですが、考えてみると、そうした機械的になされている会話であれば、AIは覚えてしまえると思うのです。でも、そういう私がパターン化している定石みたいなコミュニケーション方法は、態変のパフォーマーには通用しない。ひとりひとりとのコミュニケーション方法を考えて、自分なりに変えなくてはいけなくて、多分相手も変えてくれていて、それでやっとコミュニケーションが成立する。そう

考えると、AIが身体障害者とコミュニケーションを取ることは難しいんじゃないかなと、ふと思いました。人間にできてAIにできないことって何？みたいな議題をよく聞くけれど、障害者を真似る、といったことはAIにはできないんじゃないか、と。それで、あれ、もしかしたらそこを起点に考えたら人間の意味、みたいなのが分かってくるのかも、と思います。と同時に、人間とAIを比べる問いがでてくるということは、よく考えると人間が機械的になってきていたり、均一化されてきていることを示唆しているのかなと思いますし、そもそもそのそうした問い自体、効率や生産性が前提にある問いなのかもしれません。

この作品が提起したい問題というのは、既にいたるところで議論され尽くしているのではないかと思っていたのですが、今日の稽古でのコミュニケーションを考える中で、なぜ態変がこの作品を上演するのかが、私の中でなんとなく腑に落ちた気がします。

（10月3日稽古レポートより抜粋）


 態変ニュース！

# 横浜YPAM2021に呼ばれ、一挙上演へ 「さ迷える愛」三部作

昨年態変をメインステージに呼んだ TPAM が今年 YPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング 2021）へと名称を変え、その初めの年に、態変が三部作の一挙上演を行なう運びとなりました。舞台芸術のプロフェッショナルが集う場ですが、一般の方でもチケットを購入し観劇できます。全世界へ向けた、インターネットライブ配信もあり。現代の愛を問う、さ迷える愛三部作。どうぞ注目ください。

## 公演日時

12/17（金）19:00 『翠晶の城 - さ迷える愛・序』

12/18（土）19:00 『箱庭弁当 - さ迷える愛・破』

12/19（日）18:00 『心と地 - さ迷える愛・急』

会場 KAAT 神奈川芸術劇場 ホール

横浜国際舞台芸術ミーティング 2021（YPAM2021）  
YPAM ディレクション



## チケット

一般 ¥3,500 YPAM 登録者 ¥1,000

※インターネットライブ配信あり（詳細後日発表）

詳細 <https://ypam.jp/>

『翠晶の城 - さ迷える愛・序』 in YPAM2021

## エキストラオーディション開催！

態変が横浜の舞台に参上

唯一無二のこの身体、世界に宝と打ち立て

身障者エキストラ大募集！！

- 求める演技  
約11メートルを寝転がって舞台を横断する演技
- オーディション日時・会場  
2021年11月17日（水）13:30～15:30頃（13:00受付開始）  
会場：KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ
- お問合せ / 申込み 090-6664-8615（劇団態変・小泉）  
taihen.japan@gmail.com

詳細 <https://ypam.jp/>

## 劇団態変 賛助会員制度（2021年度） 会員募集

劇団態変は賛助会員制度による自主運営・公演活動を開始して10年目を迎えました。節目の年ですが、昨年以來大規模な公演はもちろん、メタモルホールでのイベントも「三密」を避けほぼ開催不可能になっております。このことは態変事務所の運営にも影響し、依然として財政状況は厳しいです。

しかし「芝居屋は、芝居を打ってナンボ！」と、公演準備は虎視眈々と進めています。こんな状況であるからこそ、基盤となる事務所があり、稽古や黒子育成を行なえるメタモルホールがあることの大切さを痛感する次第です。支えてくださる皆様に、改めて感謝いたします。

まだまだ先行きは見えませんが、劇団態変は粛々と芸術創造を行なって参ります。

何卒、2021年度賛助会員へのご協力を宜しくお願いいたします。

### 年会費

個人会員(年会費) ..... 一口 5,000円  
法人会員(年会費) ..... 一口 20,000円

### 会員特典

- ・会員証発行
- ・劇団態変公演ダイジェスト映像DVD進呈(年1回)  
(個人会員特典)  
チケット料金500円割引
- (法人会員特典)  
一作品1名様ご招待

### 入会方法

#### 郵便振替

同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。  
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

#### PayPal

メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。劇団態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。

## 情報誌イマージュ vol.80 2021年夏号

### 特集● 今、「収容」の意味を問う

相模原障害者大虐殺から5年。今、改めて「収容」の意味を問う。障害者、ユダヤ人、非正規滞在者…様々な寄稿から、「収容」についてじっくり考える特集です。

### クロスオーバー談義● 小田香×金満里

#### 未来を考える身体

対談には、映像作家の小田香さんが登場。2020年『セノーテ』で第1回大島渚賞受賞。今、注目を浴びつつある作家です！

絶賛発売中 詳細は ホームページ <http://taihen.o.oo7.jp/imaju/imaju.htm>



1冊：500円 / 年間購読 1500円(年3回・送料込) バックナンバー3冊 1000円

<購入方法> 同封の郵便振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。単品でのお申込みは希望の号数記入もお忘れなく！

口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

### 次号 vol.81 (2022年1月刊行予定)

クロスオーバー談義：藤原辰史氏(京都大学人文科学研究所准教授) × 金満里

特集(仮題)「食糧問題」

『心と地』アフタートークに出演いただき、藤原辰史さんと金満里の対談を掲載。

特集は、人類の生存に大きく関わるテーマとして、食糧問題を取り上げます。

劇団態変第72回公演 / アイホール提携公演

## 心と地 - さ迷える愛・急

作・演出・芸術監督 金満里  
演奏 中島直樹 / コントラバス  
音 かつふじたまこ

2021年

11月12日(金) 19:30 ★1

11月13日(土) 14:00 ★2 18:30 ★3

11月14日(日) 13:00

★公演終演後は、金満里とゲストによるアフタートークを開催!

ゲスト

★1 = 藤原辰史 (京都大学人文科学研究所准教授)

★2 = 鉄秀 (アーティスト)

★3 = 戸田ひかる (映画監督)

会場 AI・HALL (伊丹市立演劇ホール) 兵庫県伊丹市伊丹2丁目4番1号

チケット (日時指定・全席指定)

【前売り】

一般 3,500円 障害者/介助者 3,000円 22歳以下 2,500円 12歳以下 1,000円

【当日】 一律 4,000円

## チケット発売 10月16日

## チケット購入方法

受付精算時の新型コロナウイルス感染リスクを減らすため、お手数料をおかけしますが  
事前のコンビニでのチケット購入にご協力をお願いいたします。

## WEB予約

<http://confetti-web.com/taihen-72/>

はじめに演劇ポータルサイト「カンフェティ」への会員登録をお願いします。(無料)



ログイン

- ① 予約申込み 公演日時、チケット種別選択
- ② 支払い方法の選択 (クレジット払い、セブンイレブン払い)
- ③ 予約枚数確定
- ④ 座席確認
- ⑤ お客様情報入力
- ⑥ 予約内容確認
- ⑦ 予約受付完了! 払込番号をメモしてください



セブンイレブンの店頭カウンターで番号をお伝えいただきお支払い完了でチケット発券となります。(手数料330円がかかります)



カンフェティ web 予約

## 電話予約

「カンフェティ」電話予約 0120-240-540(平日 10:00 ~ 18:00)

会員登録は不要。万が一の場合の連絡のため、お客様情報(お名前と電話番号)をオペレーターにお伝えください



- ① 公演名、ご希望の公演日時、チケット種別、枚数を伝える  
※座席は選択出来ません(自動的に前方の席から指定になります)
- ② 予約内容確認
- ③ 予約受付完了! 払込番号をメモしてください



セブンイレブンの店頭カウンターで番号をお伝えいただきお支払い完了でチケット発券となります。(手数料330円がかかります)

アイホール電話受付では座席指定不可。当日精算。072-782-2000 (9:00 ~ 22:00, 火曜休館)

車イス席は劇団態変まで必ず事前にご予約ください。席数限定です。当日精算。taihen.japan@gmail.com

表紙 宣伝美術/東學 (188)

表紙、p2 イラスト/OKA

編集人 (返送先): イマージュ 金満里 小泉ゆうすけ 仙城真 和田佳子

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

tel/fax 06-6320-0344

e-mail taihen.japan@gmail.com

定価 50円

発行人: 関西障害者定期刊行物協会/大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F